

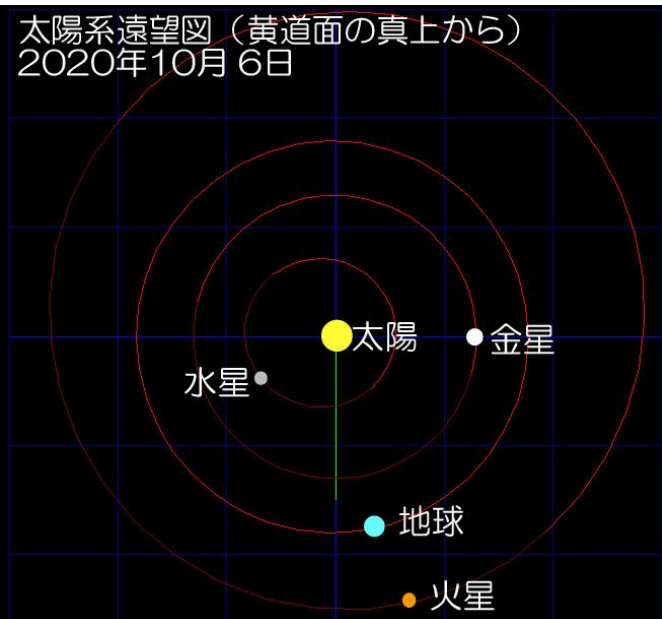
2020年10月6日の夜

「火星大接近を観察しましょう」

火星は太陽系（たうようけい）の仲間の「惑星（わくせい）」の一つです。「火の星」と書くので、暑い惑星と思うかもしれませんが、実はその逆（ぎゃく）です。太陽から見て地球よりもずっと外側にあるので、とても寒い星なのです。現在の火星には、液体（えきたい）の水はなく、氷しか見つかっていません。まだ生き物や過去（かこ）の生き物も見つかっていません。



火星と呼ばれるのは、赤っぽい色に見えるからです。これは火星の表面（地面）に赤い岩石（がんせき）が多いからです。火星には大気（空気）がほとんどないので、地球から火星の地面が直接（ちよくせつ）見えるのです。上の写真は、火星に雲がかかって、光の環（わ）ができた珍しい現象（げんしょう）です。



さて、10月6日の夜に、地球と火星が「大接近」(だいせいせきん) します。地球と火星は、太陽の周りを回る速さがちがっていて、約2年に1回だけ、近くに寄

ります。その時、火星はとても明るく見えます。しかも、地球から見て太陽の反対側に見えるので、火星は一晩中観察（かんさつ）することができます。



これは10月6日の午後8時30分の火星の位置（いち）です。東南東の空、高度（こうど）40度ぐらいの場所に見えます。明るさは-2.6等で、一等星の4倍も明るくかがやいています。



地球と火星の最接近（さいせいせきん）は10月6日の午後11時18分で、南の空の高い場所に見えます。



大きな天体望遠鏡で見ると、こんなふうに見えます。火星の下のほうに、白く見えるところがあります。これは「極冠（きょくかん）」といって、二酸化炭素（にさんかたんそ）と水でできた氷です。また、火星の右下にある小さな点は、火星の月の「フォボス」です。フォボスは暗すぎて、大きな望遠鏡がないと見えません。

もしこの日にくもっても、安心してください。1～2か月はずっと明るく見えています。ぜひ天気の良い夜に、家の人といっしょに観察してみてください。火星は明るいので、スマホでも撮影できます。